

社外取締役インタビュー



■社外取締役 早田 順幸

Q1 ▶ 当行のコーポレート・ガバナンスに対する評価についてお聞かせください。

当行のガバナンス態勢は、監査等委員会設置会社への移行、社外取締役が委員長をつとめる指名・報酬等ガバナンス協議会やCCO設置等を通じて、着実に強化されていると思います。取締役会も多様なキャリアをもつメンバーで活発な審議がなされており、実効性の向上を肌で感じています。特に進んだと感じるのは、経営層、管理者層、実務者層等、各層間におけるコミュニケーションの活性化です。社外取締役にさまざまな層との対話の機会や仕組みが設けられ、実態認識を共有しながら、建設的な議論が行われています。

社会環境の変化が進む中、サステナビリティ経営の観点からも、事業戦略や収益構造の高度化が求められますが、それには“守り”と“攻め”のバランスのとれた高次元のガバナンスが不可欠です。自動車に例えると、安心して「アクセル」を踏み込むにはさまざまな情報を正確に把握できる「モニター」と効きの良い「ブレーキ」の装備が必要なように、銀行においてもアップサイドも含めたリスクコントロールを適時・迅速に成し得る強靱なガバナンス態勢が、今後更に重要になると考えます。

Q2 ▶ 当行の人的資本経営に対する評価、及び今後の課題についてお聞かせください。

人材を資本と捉え、従業員を大事にする経営思想は、日本企業に由来存在するものですが、当行においても、職員をととても大切に考える良き企業文化を随所に感じます。特

に女性活躍推進については、各種の取組みの成果が『えるぼし』や『プラチナくるみんプラス』の取得のほか、女性管理職比率の高さに表れています。また、副業・キャリアリターン制度創設等、多様な働き方に向けた取組みも一層進んでいます。

今後の重要課題としては、デジタルやリスク管理等の多様な高度専門人材の計画的育成とキャリア採用、そして職員一人一人の自律成長とチャレンジを後押しする仕組みの整備だと思います。地域金融機関には、もともと地域の発展や人々の幸せな暮らしを願う人達が集っています。当行は新中期経営計画の中で、HRX(Human Resources Transformation)を成長エンジンの一つとしていますが、そうした志ある職員一人一人が自律成長につとめつつ、お客さまの声を真摯に聴き、一緒に考え、地域を良くする取組みに果敢にチャレンジしていく謂わば“HRX行動”は、必ずやより闊達な組織風土を醸成し、当行の持続的成長の強い原動力を生む“活きた人的資本”になると信じています。

Q3 ▶ 地域金融機関である百十四銀行が果たすべき役割、及び今後当行グループに期待することについてお聞かせください。

地域金融機関は、これまで「地域とともに歩む」ことで地域経済を力強く支えてきましたが、これから社会の姿がどう変わろうとも、企業価値の源泉は変わらずそこにあると思います。ですから、『長期ビジョン2030』に謳う「ウェルビーイングな地域社会の創造」は、当行の果たすべき使命を明快に示すものとしてとても共感しています。そしてそこに添えられた「地域のみんな」という言葉が、私はとても気に入っています。

これからの地域経済は、それぞれの特性や資源を活かしながら、独自の発展を迎えていくことになると思います。そうした中では、企業も個人も、ビジネスや暮らしに寄り添い、ウェルビーイングをプロデュースしてくれるパートナーの存在が必要となります。当行は「かかりつけ医をめざす」としていますが、まさに言い得て妙であり、真に信頼されるコンサルティング・パートナーとして、お客さまから選ばれる存在でなければなりません。

『長期ビジョン』に示した“To-Be”(ありたい姿)と“As-Is”(現状の姿)には、まだまだギャップがありますが、そのギャップこそが更なる成長・進化の“伸びしろ”であり、私は百十四グループが一丸となって次のステージに踏み出した“これから”に大きな可能性を感じています。今後とも客観的な立場からの監督・助言につとめ、“地域のみんな”とウェルビーイングを実感できる社会の実現をめざす“百十四銀行のみんな”とともに歩み続けていきたいと思っています。